

知っていますか？ “醤油サミット in 碧南” ～白しょうゆが生まれた醸造のまち～

日本人の食生活に欠かせないもの…それは醤油です。

今年は、「第7回全国醤油サミット」が碧南市で開催されているのをご存知ですか？

白しょうゆをつかったレシピのコンテストなどがすでに行われていますが、今月も講演会や「へきなん醸（かも）しフェスティバル」などのイベントが開催されます。

ところで、「どうして碧南で開催されるの？」という疑問をお持ちかもしれません。じつは小麦を原料とした「白しょうゆ」は、約 200 年前に碧南市で誕生したといわれているのです。実際、全国で 10 社弱しかない白しょうゆの醸造業者が碧南には 3 社もあります。

図書館でもこの夏から関連したイベントを行ってきました。また、現在も 1 階フロアでは、白しょうゆ関連の商品を展示をしたり、白しょうゆに関連した書籍を展示・貸出しています。ぜひご覧ください。

他にもいろいろなイベントが開催されます。くわしくは、碧南市役所の HP をご覧ください。
⇒<http://www.city.hekinan.aichi.jp/SHOUKOKA/syoyu/syoyutop.htm>

休館日

11月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

■ は本館の休館日です

11月のギャラリー

『特別養護老人ホームシルバーピア
みどり苑利用者様 作品展』
期 間：11月2日（水）～27日（日）

※ギャラリーの展示は17時までです。

編集後記

あっという間に秋が深まり、そろそろ冬支度を始めなければ、と思うほど冷えて来ました。今年は寒波の予報がでていますね。雪が降るとちょっぴりはしゃいでしまうのですが、車の運転が怖いので複雑な気分です。（お）

けやきどおり通信（No.278）

編集・発行 碧南市民図書館

〒447-0057
碧南市鶴見町1-70-1
TEL：(0566) 41-0894



けやきどおり通信



2016年11月 ～NO. 278～

夫婦のカタチ

11月22日は「いい夫婦の日」です。

仲むつまじい姿を「おしどり夫婦」と称することもあります。さて、いい夫婦ってどんなものなのでしょうか？

端から見ればヘンテコに思えるふたりでも、当事者同士ではしっかりきているということもしばしば。

今月の特集は、いろんな『夫婦のカタチ』の本を集めてみました。愉快的夫婦、愛情溢れる夫婦、お互いに尊敬しあう夫婦からちょっぴり危ない夫婦まで、バリエーション豊かにお届けします。



『妻と夫の定年塾 1～5』西田小夜子/著 中日新聞社（367.3㍿）

日本は世界に名だたる長寿国家。仕事を定年退職しても、まだまだこの先には長い人生が待っている！ 楽しく定年後を過ごすにはどうしたらいいのか？ 痛烈で、ときにユニークで心温まる夫婦のエピソードを多数紹介。



『ウイスキー筋に生きてきた男、竹鶴政孝。』

マガジンハウス (588.5 ㏞)

日本での本格ウイスキーづくりに力を注ぎ、ニッカウヰスキーの創業者となった竹鶴政孝と、彼を支えた妻・リタ。たくさんの写真からふたりの足跡をたどる。

『そうか、もう君はいないのか』

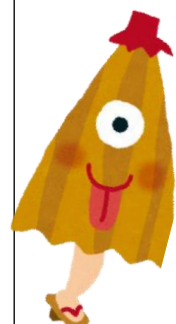
城山三郎/著 新潮社 (914 シ)

癌と判明した妻を「大丈夫。おれがいる」と抱きしめる夫。切ないまでの夫婦の絆を綴ったエッセイ。この本を執筆しながら、自らの9年間を記録した『どうせ、あちらへは手ぶらで行く』(915 シ) も併せてどうぞ。

『ゲゲゲの女房』

武良 布枝/著 実業之日本社 (726.1 ゲ)

赤貧の時代も、人気マンガ家として突き進んだ日々も、いつもともにあった妻が語る、水木しげると生きた半世紀。



『君について行こう』

向井万起男/著 講談社 (916 キ)

日本人初の宇宙飛行士・向井千秋さんの夫が書いた、愛の物語。日本ナイスカップル賞に輝いたふたりの出会いから、スペースシャトルの打ち上げまでを描く。続編に『女房が宇宙を飛んだ』もあります。

『利家とまつ 上下』

竹山 洋/著 日本放送出版協会 (F タ)

群雄割拠の戦国時代、けして天下を目指すことなく、ナンバー2の立場を貫いた武将・前田利家と、その妻であるまつ夫婦愛を軸に、戦国時代の人間模様を描いた大河小説。

『老後は夫婦の壁のほり』ねじめ 正一/著 清流出版 (914 ネ)

人は老いたときにこそ、本性があらわれてくるものらしい。団塊世代の著者は、自らの老後にどう立ち向かうのか? そしてそのときオクサンは——?

『明日の記憶』

荻原 浩/著 光文社 (F オ)

家庭をかえりみることなく仕事に打ち込んできたやり手営業マンの佐伯は、49歳の若さで若年性アルツハイマーの診断を受ける。受け止めがたい事実、死のうとさえした佐伯だったが……。病に向き合う決心をした夫のかたわらによりそう妻との日々を克明に描き出す。

『秘密』

東野圭吾/著 文芸春秋 (F ヒ) 文庫あり

杉田の妻と娘が乗ったバスが転落事故にあった。妻を亡くしたものの、娘は一命を取り留める。だが、娘の体の中にいたのは、妻である直子の意識だった。戸惑いながらもその秘密を守りながら暮らす杉田。しかしその生活にはしだいにズレが生じるようになり、やがて……。

『エらいところに』

嫁いでしまった! 1・2

橋村君子/著 新潮社 (914 マ)

結婚相手は学生時代の友人・磯次郎。「カピバラ」みたいな顔をしているくせに、この男、なんと名家のご子息だった! おかげで妻は次から次へと「しきたり」に追われることに……。

『イギリスの夫婦は』

なぜ手をつなぐのか

井形 慶子/著 新潮社 (367.3 イ)

どうしてイギリスの老夫婦たちはいつまでも仲良く手をつないでいられるのだろう? その関係から、身近な人との付き合い方を学ぶ。

『夫婦格差社会』

橋本 俊詔、迫田 さやか/著 中央公論新社 (361.8 7/新書)

医師夫婦のようなパワーカップル、その対極の若いウィークカップルなど、二極化を見せている日本の夫婦のかたち。事例をあげながら、さまざまな夫婦の格差を考える。



『遊牧夫婦 2003→2004』

近藤雄生/著 ミシマ社 (290.9 ユ)

無職のまま結婚し、そのまま海外へ! 「旅の中を生き続けたい」と旅立った夫婦の5年間におよぶ旅の、最初の1年間の記録。続編に『中国でお尻を手術。』『終わりなき旅の終わり』もあります。

『50年後も幸せな夫婦でいられる方法』石井 希尚/著 主婦の友社 (367.3 ゴ)

「結婚後はまったく家事をしてくれない」「義理の母が苦手」「妻よりもお母さんみたいな気がする……」。そんな妻たちからの相談に、具体的に答えます!

『夫婦の家』天野 彰/著

講談社 (527 7)

いったこの家は「誰のため」の家だろう? 建築家が定年後の家を提唱します。夫婦の暮らしを見つめなおすためのヒントが満載です。



『あなたには帰る家がある』

山本文緒/著 集英社 (F ヤ)

幼い子を抱えた真弓と英明、家の建て替えを考えている茄子田と綾子。危うく絡み合う2組の夫婦の行く先とは? 人のおろかさと愛しさがあふれる物語。

『きいろいソウ』

西加奈子/著 小学館 (F ニ)

都会から田舎へやってきた、一組の若い夫婦。背中に大きな鳥のタトゥーを背負う小説家の夫と、周囲の生物の声が聞こえてしまう妻の穏やかな日々。けれど……。

『家日和』奥田英朗/著

集英社 (F オ) 文庫あり

ネットオークションにはまった専業主婦、会社が倒産し、突然主夫になってしまったサラリーマン……。現代の家族の姿を優しい視点で描いた短編集。文庫もあります。

棚にないときは予約をどうぞ!!